第7回川と山のぎふ自然体験活動の集い　報告書

2010 年 7 月 3 日（土）・4 日（日）
　於　岐阜市　ハートフルスクエアーG」及び、岐阜駅周辺、金華山・長良川

目　　次

実施要項	3-8
実施記録	9-20
総括にかえて	21

第７回川と山のぎふ自然体験活動の集い実施要項

岐阜県下各地で開催してきた「川と山のぎふ自然体験の集い」を、今年は岐阜市で開催することとし企画を進めています。この催しは、岐阜県下で活動する自然体験活動の指導者や団体が集い交流する目的で７年前から活動しています。

毎回、実施地域の団体や個人にその地域の体験活動を実施いただいています。
今回は、指導者の交流の他に一般の方の体験の機会や催しも用意しました。

何卒、企画内容をご理解いただきご協力いただけますようお願いいたします。

川と山のぎふ自然体験活動の集い実行委員会
代表　　北川　健司（特定非営利活動法人エヌエスネット）

■テーマ
『広げよう、ぎふの自然体験活動の輪！』
～岐阜・まちなか自然体験！　幼児と小学生のための自然体験～
■日時：2010 年７月３日（土）、４日（日）
■場所：JR 岐阜駅構内「ハートフルスクエアーG」を中心に、岐阜駅周辺、
金華山・長良川にて開催
■主催：川と山のぎふ自然体験活動の集い実行委員会
川尻　秀樹（森林インストラクター岐阜）、北川　健司（特定非営利活動法人エヌエスネット）、柴田　甫彦（環境市民ネットワークぎふ）、田村　明（朝日大学）、佃　正壽（森林たくみ塾）、中澤　朋代（松本大学）、三島　真（山と川の学校）、八尾　哲史（岐阜県立森林文化アカデミー）
■共催：特定非営利活動法人自然体験活動推進協議会（通称 CONE）
■問合せ・申込み先
川と山のぎふ自然体験活動の集い実行委員会事務局
アウトドアサポートシステム　エコツーリズム事業部
〒501-3725　岐阜県美濃市俵町 2122　　まちなか情報ステーション　美濃俵町町屋内
TEL/FAX.0575-46-9232　　E-mail：eco@odss.co.jp
■事業概要（スケジュール概要は、別添の表をご覧ください）

＜３日（土）＞＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

★やってみよう、岐阜市内で自然体験！　その１

【９時～12 時】

山を「あるく」:「金華山サポーターズ」と歩く金華山ハイク

会場：金華山

担当：金華山サポーターズ

岐阜市のシンボルといわれる金華山を、次の世代に引き継ぐため活動する市民団体です。
地球の生命、歴史と自然、景観を楽しめる山です。
野鳥の鳴声を聴きながら、子供から大人まで、一緒に「金華山ハイク」を楽しみましょう。
集合場所、コースについては参加者の状況を見て決定いたします。

【９時～12 時】】

河原で「つくる」:「おやじたちの秘密基地」で作る竹クラフト

会場：竹林広場公園

担当：風と土の会

岐阜市竹林広場公園全面積６５０００平方メートル１４年間で７０％の間伐を終わりましたが、生命力旺盛な竹には、追っかけごっこで、遅々として完了しません。ですが色々な褒美をくれだけに、会員一同やりがいを感じてがんばっています。
今回は竹林間伐を１時間ぐらい体験していただき、間伐材を野菜の手にお持ち帰りになれます。竹細工は、竹垣の製作か花器つくりのいずれか体験していただきます

【13 時～16 時】

山を「まもる」: 絶滅危惧の可憐な花「ヒメコウホネ」観察会

会場：達目洞

担当：達目洞自然の会

達目洞自然の会は、ヒメコウホネが自生する達目洞の自然環境を保全するための活動を進めています。多様な生きものの棲む湿地環境や里山の自然を感じてもらい、自然環境保全の活動も体験していただきます。
※　軍手と長靴をご用意ください。

【13 時～16 時】

川で「あそぶ」:「Ｅボート」で行く！　長良川下り体験会

会場：長良川（千鳥橋～鵜飼広場）

担当：長良川環境レンジャー協会、ＯＤＳＳ、エヌエスネット

長良川環境レンジャー協会では河原の清掃活動の実施だけでなく、河川利用者にゴミの持ち帰りの啓発や利用場所の案内など環境保全の大切さを広く訴えかけて話しています。水質調査、各小中学校への出前講座などを通して、子どもたちへの環境教育にも力を入れています。
今回は「川仲間」ＯＤＳＳ、エヌエスネットの協力を得て岐阜市民の誇り清流長良川の川下りを堪能していただきます。　　※参加条件：小学生以上（小学生は親子同伴）

※定員：、20 名程度　　※長良川下りを除いて年齢制限はありません。
※いずれの会場も、JR 岐阜駅から自転車で行ける距離にあります。
※当日は、現地集合、現地解散となります。
※事前にお申し込みください。

★スキルアップ！自然体験のマネジメント　その１（CONE 事務局主催）

【９時～13 時】

CONE トレーナー更新講習会（※「CONE トレーナー限定」の行事です）

【14 時～17 時】

水辺の安全講習会（机上講習、どなたでも参加可能です）

参加費：2000 円　※修了証が発行されます。

担当：北川健司

※トレーナー更新講習会は、翌日、長良川での実習もあります。
９時～13 時　Ｅボート体験会（オプション、自由参加）

★集い語ろう、ぎふの自然体験活動
【19 時～21 時】
情報交換会
会場：BAR 北川
会費：2,000 円

＜４日（日）＞＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
★やってみよう、まちなか自然体験！　その２
【９時～11 時】ＪＲ岐阜駅北口
まちで「あそぶ」：都市の公園でも出来る！　ネイチャーゲーム
担当：岐阜県ネイチャーゲーム協会
岐阜市の自然は金華山と長良川だけではありません。まちの真ん中にも楽しい自然があります。
今回は JR 岐阜駅の真ん前で五感を使って身近な自然を体感してもらいます。ネイチャーゲームの楽しさを一人でも多くの皆さんに楽しんでいただけたらうれしく思います。
【９時～11 時】旧中山道加納宿
まちを「かける」：中山道を行く「自転車エコツアー」
参加費：100 円（レンタサイクル料）
担当：ODSS エコツアー事業部
美濃最大の宿場町であった「加納宿」をご案内します。江戸幕府や天皇家に届けられた「鮎寿司街道」、今でも全国一の生産量を誇る「和傘」など歴史のロマンに思いをはせながらレンタサイクルでサイクリングします。

【11 時～13 時】清水川公園
まちで「のぼる」：木登り体験・ツリークライミング
担当：ツリークライミングジャパン岐阜
参加費：保険料
※以上の集合場所：ハートフルスクエアーＧ「研修室 50」

【９時～14 時】ハートフルスクエアーＧ　クラフト室
まちで「つくる」：ぎふのクラフトプログラム、大集合！
参加費：材料費
＜竹のとローンボーン作り＞　栗谷本征二さん（栗くり工房）
竹にルーターを通して自分だけのオリジナルトローンボーンを作りましょう。練習次第でいろんな曲の演奏もできます。
作りながらいろんなおお話しましょう。
材料費５００円、体験時間２０分くらいから
＜岐阜の木でつくる根付・ストラップ＞　入江鐵夫さん（行灯工房）
木のぬくもりが子ども達の感受性を豊かにします。岐阜の木（トチノキ、ホオノキ等）で、自分だけのオリジナルな根付・ストラップをつくってみませんか。親子での参加も歓迎します。
・参加費　４００円（教材費）
＜ひのきでマイはしづり＞　酒井慶太郎さん（酒井産業）
子どもから大人まで楽しみながら、カンナでヒノキを削る気持ちよさ、どんどん箸の形に仕上がっていくモノ作りの喜びが体感できます。最後は手のサイズに合わせカットし、米ぬか油を塗って仕上げます。
・参加費　２００円（教材費）

※定員：20 名程度（クラフトプログラムを除く）
※いずれの会場も、JR 岐阜駅から歩いて行ける距離にあります。
※事前にお申し込みください（当日受付もあります）。

★幼児から小学生へ…　自然体験をどうつなぐ？
【９時～10 時 45 分】（小研修室１）
分科会１「『森のようちえん』から『森のしょうがっこう』へ」
担当：原令子さん（岐阜県ネイチャーゲーム協会）
【11 時～13 時】（中研修室）
映画上映会「里山っ子たち」
担当：萩原裕作さん（森林文化アカデミー）
【14 時～16 時】（中研修室）
自然体験活動シンポジウム
テーマ：**子どもの成長に寄り添ってつなぐ自然体験**
３日の自然体験活動の様子の写真のスライドショー
話題提供者
：杉山三四郎さん（「おおきな木」店長）
三島真さん（郡上八幡・山と川の学校　代表）
西田真哉さん（トヨタ白川郷自然學校　校長）
コーディネーター：北川健司さん（エヌエスネット　代表）

★スキルアップ！自然体験のマネジメント　その２
【９時～11 時】
学校支援指導者養成講座（CONE 事務局主催）
【11 時～12 時 45 分】（中研修室）
「自然体験活動をとりまく『規制緩和』を知る」
自然と生活文化豊かな中山間地域を楽しんでもらうツアー。
日本各地で盛り上がるこうした試みが「違法行為」！？
意外に知られていない法律の壁とその規制緩和の流れについて、真剣に、かつ、楽しく、学び合いましょう。

ゲスト：広瀬敏通さん（日本エコツーリズムセンター）
担当：八尾哲史さん（森林文化アカデミー）

★ぎふの自然体験活動と出会おう！
【９時～14 時】（小研修室１）
オープン！「ぎふの自然体験」紹介展示場
（ハートフルスクエアーＧ「研修室 50」）
岐阜は大自然の宝庫です。美しい緑の山から流れ出るエメラルドグリーンの川面が真っ白に変わり、巨大な滝を流れ落ちてゆきます。
さわやかな岐阜の風を楽しみにいらっしゃいませんか。皆さんがまだ知らない大自然とのコミュニケーションの場を紹介します。
旅行雑誌では手に入らない貴重な情報をたくさん用意しました。
※紹介展示場では、各団体の活動紹介ポスターやパンフレットの展示、また、活動紹介の映像のコーナーを設けます。みなさんからの積極的な資料提供を期待しています！
※活動紹介の映像を提供いただける団体は事務局までご連絡ださい。

日 程 表

7月3日（土）								
	ハートフルスクエアーG				サテライト			
	中研修室	研修室50	小研修室1	クラフト室	金華山	達目洞	竹林広場	長良川
9:00		CONE トレーナー更新講習会			金華山 ハイク		竹工作体験	
10:00								
11:00								
12:00								
13:00						ヒメコウホネ観察会		長良川ボート下り体験会
14:00		水辺の安全講習会						
15:00								
16:00								
17:00		搬入展示						
18:00								
19:00		情報交換会						
20:00								

7月 4 日（日）							
	ハートフルスクエアーG				サテライト		
	中研修室	研修室50	小研修室1	クラフト室	清水川公園	JR 岐阜駅北口	旧中山道加納宿
9:00	学校支援指導者養成講座	自然体験団体、個人の情報展示	分科会 1 「森のしょうがっこう」へ	クラフト教室		ネイチャーゲーム	自転車 ECOツアー
10:00							
11:00	映画会		分科会 2 自然体験活動をとりまく「規制緩和」		ツリークライミング		
12:00							
13:00							
14:00	シンポジューム						
15:00							
16:00							

実 施 記 録

第１日目

★ やってみよう、岐阜市内で自然体験！　その１

1. 山を「あるく」:「金華山サポーターズ」と歩く金華山ハイク

ガイド：　野尻　智周（金華山サポーターズ）
参加者：4 名
記録：加藤（ODSS エコツーリズム事業部）、澤田（森林文化アカデミー）

《報　告》

今回、案内していただいたのは金華山サポーターズの野尻さん。最初に金華山を麓から眺めながら、ヒノキの立ち枯れなどの変化が起きていることを教えていただきました。

小雨が降る中、七曲登山道を山頂目指して登ります。七曲登山道は、金華山の登山コースの中でも最も多くの方が利用しているファミリー向けコースです。

親子で参加された方がみえて、野尻さんもお子さん連れでガイドをされたので、子供たちと楽しみながら和気あいあいとした雰囲気で歩きました。

子供たちは元気で、好奇心旺盛。あっちに行ったりこっちに行ったり。きのこを見つけるのも早い。食べられそうなものには目がないのか。

何箇所か見られた防火水槽は山火事の際の初期消火に使用されるもので、雨水がたまり、常に満タンにたまっている。大きな岩は、チャートという硬い岩石でできており、この辺り古代は海底だった。などと野尻さんの話をうかがいながら歩きました。

子供たちとゆっくり歩き時間はかかりましたが、がんばって山頂まで登りきりました。山頂に着くと楽しみにしていたおやつタイム。笑顔を取り戻して、のんびりくつろぎ、帰りはロープウェイで降りました。

登山道の道中には手作りの案内板や登山道の路肩の補修のあとがみられ、ウッドチップの試験舗装もされていました。これらは、金華山サポーターズの方々が集まって整備されたそうです。あらためて金華山サポーターズのような陰で支える方々のおかげで、多くの方が安心して登山できるのだなと感じました。

雨の中の登山になりましたが、子供たちと和やかに、のんびりと歩き、周りの景色を眺めると雨に濡れて艶やかな緑の葉が美しく、雨の日は雨の日の美しさがあると実感できた山歩きになりました。

2. 河原で「つくる」:「おやじたちの秘密基地」で作る竹クラフト

ガイド：松波　玄海（風と土の会）
記録：庄司　正昭（ODSS エコツーリズム事業部）

《報　告》
雨なら中止とのことでしたが、９時～１０時過ぎぐらいまで、作業をさせて頂きました。
今回は参加者の方が少なかったので、庄司のみ参加しました。
今回作業させていただいたところは、竹藪というより竹林と呼ぶにふさわしく手入れされたところでした。「風と土の会」は発会から１５年の歴史がある会で、会員は約５０名（確か)。年齢層の幅が広く、大学生から９０歳代までいるそうで、松波さん曰く「リタイヤした方々も多い。昔は会社の役員などえらい人もたくさんいるが、ここではみんな平等で、ぼちぼち楽しくやってます」とのこと。
そういう、雰囲気がこれだけの歴史と会員の多さを作ってきたのだなと感じました。

竹林整備は、一年目の竹を間引きする形で切って行くそうで、なぜ一年生かというと、「まだやわらかいので、腐りやすい（放置しても土に帰るのが早い)」のだからそうです。確かに切った竹を運んで燃やす作業を考えると効率的です。私もお手伝いさせていただいたのですが、間引くことに夢中で少々の太い竹（一年生）を切っていたら、太い竹は残しておいてと注意されてしまいました。この辺にある竹はマダケとハチクで、手入れをすると、一年で３回ほど筍が出るそうです。でも後になるほど竹が細くなるので、太いのは貴重なのだとか。（太い筍は、業者が勝手に来て取られてしまうともおっしゃってました）

６月ぐらいには「ヒメボタル」という陸生のホタルが、すごい数で光るらしく竹林を整備するといろいろな環境に変化を生みだしてくれるのだと感心しました。
また、竹林が風に揺られる音は、水のせせらぎよりもリラックスできる音らしく、日本が誇る癒し空間を見直すことが出来ました。

●今後の課題と感想
- 今回、参加者が０になって中止になったことが残念。すべてのプログラムにおいてだが、集客の方法やプログラムの見せ方等の検討が必要だったのかも。(この業界の問題点でもあるが)

3. 山を「まもる」: 絶滅危惧の可憐な花「ヒメコウホネ」観察会

ゲスト：加納 一郎（達目洞自然の会）
担　当：高津 法子（ODSS エコツーリズム事業部）
参加者：10 名

《報　告》

小雨の降る中、金華山の東山麓に位置する達目洞（だちぼくぼら）でヒメコウホネを始めとする昔ながらの里山を散策、生態観察が行われました。

加納さんの丁寧で細やかな解説による里山の案内や加納さんご自身が「達目洞」に関わるようになった経緯についても教えて頂きました。参加者は、水の中からすーと立ち上がるように咲いている色鮮やかな黄色の「ヒメコウホネ」を興味深く観察し、中には目にするたくさんの動植物、ひとつひとつをじっくりとカメラに収めている姿も見受けられました。また、ここは間近に主要道が通っており、こんな所にこんな場所が残っているなんて驚きです、という声が聞かれました。

〇ヒメコウホネについて
- 現存する生育地は、達目洞の他には三重県のみで、全国的にも非常に貴重な自生地区となっており、通称のヒメコウホネとは別種。絶滅危惧種ともされている植物
- 開花時期は 4 月にちらほら出始め、それから 10 月までと長い
- 名前の由来は、川の中に骨があるように見えたところから

〇達目洞について
- ヒメコウホネをはじめとする希少な動植物が生息する
- 湧水がでており、里山形成に大きく関与している
- ここは岐阜県内でもいちばん最後まで電気が通らなかった地域で、最後の桃源郷とも言われていたそう
- 見られる生物として「モリアオガエル」や成虫は光らない「コクロオバボタル」などがあり、この日は、おたまじゃくし、ザリガニ、蜻蛉などが観察できた

〇達目洞と加納さんとの関わりについて
- 15 年程前に、達目洞に道路が通る計画（現在の国道 156 バイパス）があり、この豊かな自然環境を想って、その反対運動に関わったのが始まり
- 道路着工にあたっては、保全のための働きかけを行い、極力環境に負担がかからないような工夫（例：道路の高架、雨水の排水先の工夫）をしてもらう
- 現在は、湿地環境の再生や復元、外来種の除去、休耕田の活用、水路の清掃、観察会を通じての啓発活動などに取り組んでいる

〇環境保全への取り組み例
- 市役所の協力を得て、昔ながらの方法で杭打ちをして川岸の整備、木道の設置を行う
- ヒルムシロは上流、ヒメコウホネは下流と棲み分けを行っている
- 昔ながらの方法での田んぼづくり

4. 川で「あそぶ」:「E ボート」でいく！長良川下り体験会

ガイド：小野（長良川環境レンジャー）、石際（エヌエスネット）
参加者：７名
スタッフ：山内（ODSS エコツーリズム事業部）、新津（森林文化アカデミー）

《報　告》

前日からの雨が止まず、天気はぐずつき気味。
水量は平水より１ｍちょっと高いけど、午前中に下見をした感じでは、雨が上がれば実施できそうということで、とりあえず環境レンジャーの事務所で様子を見ることにし
ました。お昼ごろまた雨が降り出し、雷の恐れもあったので、この地域で警報が出ていないことを確認したうえで、現場へ向かいました。
参加者の皆さんがあまり乗り気でなければ中止してもい
いと思っていたのですが、集合場所の千鳥橋下流へ行ってみると皆さんやる気満々。参加者は 2 家族（お母さん 2 人、子供 3 人）と岐阜市自然環境課の方が取材を兼ねて 2 人。小雨がぱらつく肌寒い天気のなか早速 E ボートの準備にか
かりました。

次は、PFD(ライフジャケット)を着けて、安全に関するお話をしました。特にボートから落ちた時の泳ぎ方や注意点、スローバックで助けてもらう方法を見てもらいました。
いよいよ出発。小野さんにラダーマン（舵取り）をお願いし、石際と新津さんが漕ぎ手に入りました。山内さんには地上サポートをお願いし、上陸地点の長良・鵜飼広場へ車の回送をしてもらいました。
漕ぎ出すと流れも速く、増水で底が擦ることもないので、遊ぶ古津のワンドもこの天気では飛び込みたいという子供もおらず、ボートから見るだけ。鵜飼大橋下に上陸し自然観察も行いました。増水のため普段は水がつかない川原のあたりまでしか入れないので、水棲昆虫は少なかったのですが、石の裏にヨシノボリが卵を産み付けているのを発見しました。子供たちは腰まで水に浸かりバチャバチャ水を掛け合って元気、元気。

鵜飼大橋から鵜飼広場まではあっという間。納涼台付近から雨に煙る金華山の原生林を見上げると、ここは日本じゃないような気がしました。
最後は、山内さんと、応援の加藤さんに迎えられてゴールしました。最初はどうなることかと思いましたが、参加された皆さんの笑顔を見て、出来てよかったなぁと思った次第です。（石際記）

第2日目

★ やってみよう、まちなか自然体験！　その２

1. まちで「あそぶ」: 都市の公園でも出来る！　ネイチャーゲーム

参加者：19 名
担当：岐阜県ネイチャーゲーム協会

NO　PHOTO

今回は、ネイチャーゲーム体験会は岐阜駅北口で行いました。普段、自然体験と言えば川や山の中ってイメージがありますが、今回の会場は駅前であまり自然がない環境でした。そんな中でおこなったのは、人間の五感を使いながら自然を楽しめるネイチャーゲームをやりました。今回行ったゲームは、ノーズ、私は誰でしょう？、カモフラージュ、フィールドビンゴの 4 つです。

ノーズではある一匹の動物のことについて一つずつヒントを言っていきその生き物がわかったら人差し指を鼻につけて、みんな指を鼻につけたらみんなで答え合わせ、最初はみんな、ヒントを聞いてどんな生き物かわからない様子でしたが、いろんな人を聞くにつれてしだいにみんな答えがわかっていき、最後はみんな正解しました。
次は、私は誰でしょうをやりました。背中についた動物の絵をみんなからヒントを聞いて動物を当てるゲームです。ここで初めて参加者の人たちとの交流が行われ、みんなアイスブレイクできた様子でした。
そして、カモフラージュは、自然の中に隠れている人工物（自然の中にないもの）を探すゲームです。このゲームは、大人も子ども関係なくみんな夢中になって探していました。下から覗いてみたり、横の角度から見てみたりなど外から見たらとっても面白い絵です。最後に答えあわせでは、なんと全も正解は 2 人だけ！？しかも。大人より子どもの方が見つけた数が多かったです。やはり子どもの感性には驚かされます。
そして最後に行ったのは、フィールドビンゴです。ビンゴカードに書かれたお題を探して見つけたらお題に丸をつけてビンゴを目指します。小さな自然の中でいろんな発見や驚きがありました。

課題：今回参加者に子どもが多くいました。しかし、ネイチャーゲーム指導員の方は対象が大人だと思いそれように準備をしてきたが、結果子どもの方が多かったので今後もやる際は、参加者名簿が欲しいと言っていました。そうすることで、いろいろ対応や準備ができるかだそうです。

2. まちを「かける」: 中山道を行く「自転車エコツアー」

ガイド：エコツーリズム事業部（庄司、加藤、山内）
参加者：2 名
記録：庄司、山内（ODSS エコツーリズム事業部）

《報　告》

雨が心配されましたが、陽も差すほど暑くなり絶好のツアー日よりとなりました。
参加者の方は２名と少なかったのですが、有意義なツアーになったと思います。

①和傘の問屋を訪ねる（平野商店）
加納の和傘の歴史は、1600 年代に、加納城の殿様が、神戸から和傘職人を連れてきたのが始まりで、商人から武士にいたるまで、和傘作りを奨励した。和傘はさまざまな工程があり、ロクロなど（傘の心臓部ともいえる、骨を支える部品は岐阜の小企業が支えている。　そこが無くなると、加納では傘を作れなくなるとのこと。
蛇の目傘は女性向きで閉じたときは細身。番傘は男性向き
和紙は昔は美濃和紙だったが今は様々。おどり用として絹布で作った和傘もあった。
商品はほとんど、京都や浅草（東京）などに卸している。

②中山道の道標
明治に建てられた中山道の道標。岐阜道（お鮨街道）、西京(京都)などの案内が残っている。明治天皇が岐阜を訪れた際作った道が岐阜道として残っている。

③茶所
中山道とお鮨街道の分岐点。お鮨街道は東海道に通じている。ぶたれ坊というお相撲さんが、自分を反省して茶屋を建てたとのこと

④加納城
徳川家康の命で 1602 年築城。加納城の石垣は岐阜城から持ってきたもの。

●今後の課題と感想
・今回は、内輪の参加者の方だったが、時間、サイズともに良いと思うと、アドバイスをいただいた。
・ただ、お金をとるとなると、それなりのクオリティが必要ではないかとの意見もあった。
・小物や視覚的（地図）などを使ってやるともっと良いかも。
・加納宿だけではなく、中山道をターゲットにするともっと集客できるかもしれない

今回は少ない参加者でしたが、可能性があるツアーだったと感じた。

3. まちで「のぼる」: 木登り体験・ツリークライミング

計画していましたが、岐阜市からの清水川公園の使用許可が下りず、実施に至りませんでした。

4. まちで「つくる」: ぎふのクラフトプログラム、大集合

★竹のトロンボーン
栗谷本　征二（栗くり工房）
　リョウブ教を広めましょう。（アサーG）

★岐阜の木でつくる根付・ストラップ
入江　鐵夫（行灯工房）
　サクラとクルミ油のコラボに感激（アサーG）

★ひのきのマイはしづくり
酒井　慶太郎（酒井産業株式会社）
　ヒノキのカンナ屑、美しい。（アサーG）

★記録
浅野　純一（NPO 法人緑の風）

　自然体験の中でも人気があるのはいつでもどこでもできるもの作りです。といってもそれをプログラムと呼べる水準まで引き上げる必要があります。
　プログラムとなると内容が楽しく、安価で、出来栄えがよく、予定時間内で仕上げ、しかも物づくりの真髄と奥深さや指導者のねらいがきらっと光ることが必要ですね。
　話は今回の懇親会のカウンターの片隅に移ります。そこで自然体験のねらいとして「成功体験による自己の確立」と「失敗体験からはいあがることで自己の確立」の議論が行われていました。実は物作り系のプログラムはどちらも仕掛けることができます。規格（物作りの標準）を甘くするか、厳しくするかのさじ加減でどちらもできます。

　物作りはおおきく 2 種類に分かれます。それなりの道具や冶具を使えばそれなりの製品ができます。これは工業と呼ばれ、この場合は設計する技術者とそれを作る労働者に分かれます。それと違って自分が作りたいものを作り込む工芸の世界では職人と見習いに分かれます。「なりわい」と「げい」の差ですね。自然体験指導者には身につまされる温度差の大きい言葉ですね。

　今回の講座では経験豊富な講師陣が多くの参加者を期待していましたが、トロンボーンは 6 名、根付は 3 名、マイはしは 2 名（それぞれ関係者の体験を除く）という惨憺たる結果に終わってしまいました。
　しかし、講師陣はいつものとおり材料、加工、冶具その他の情報を沢山持ちかえる楽しい他流試合になりました。その内容は「企業ヒミツ」です。知りたかったら次回のものづくり講座に来てください。

★幼児から小学生へ…　自然体験をどうつなぐ？

1. 分科会１「『森のようちえん』から『森のしょうがっこう』へ」

担当：原　令子（岐阜県ネイチャーゲーム協会）
　　萩原　裕作（岐阜県立森林文化アカデミー）
参加者：4 名
記録：高津　法子（ODSS エコツーリズム事業部）
　　西岡　里子（岐阜県立森林文化アカデミー）

《報告》

分科会 1 では、森のようちえんを卒園した子どもたちが小学生になると、自然の中で遊ぶ機会が減少してしまう現状と、その状況を改善するための具体的な取り組みについて話し合いました。今回、小学校教諭やネイチャーゲーム指導者講習会を受講された方、街と山をつなぐ活動をされている方、自然学校で長年働かれていた方など、さまざまな分野で子どもと関わっている 4 名が参加されました。

まず、小学校の現状として、授業の中で自然体験を取り入れる時間がほとんどないこと、先生の多くが自然体験を重要だと思っていないこと、また子どもたち自身も習い事などに時間が取られ、自由に遊ぶ時間が持てていないことなどがあげられました。それを踏まえて、外部から自然体験指導員を呼び、年に数回カリキュラムの中で自然体験活動を行うこと、さらに、日常的に子どもが自由に遊べる場所として、プレイパークが提案されました。プレイパークは、子どもの身近なところで、自由に遊べる場所と道具を提供する取り組みのことで、小学校や学童保育と連携して、地域が運営・管理できるような仕組みが必要になるという結論に達しました。また、今後も連携して小学生の自然体験に関する活動を続けていくことを確認し、分科会を終了しました。

２. 映画上映会「里山っ子たち」

担当：萩原　裕作（岐阜県立森林文化アカデミー）
参加者：40 名（大人 30 名、子ども 10 名）
記録：西岡　里子（岐阜県立森林文化アカデミー）

《報告》

今回上映した『里山っ子たち』は、市街地に残る里山で保育を実践している千葉県木更津市の社会館保育園の子どもたちが、里山の森や田んぼや川での体験を通してどのように変化し成長していく日のかを一年半にわたって撮影した、110 分の長編ドキュメンタリー映画です。

上映会には、岐阜市在住の親子や、分科会 1「『森のようちえん』から『森のしょうがっこう』へ」の参加者、「まちで『あそぶ』: 都市の公園でも出来る！ネイチャーゲーム」の参加者もいました。

また、『里山っ子』上映後、神奈川県鎌倉市で森のようちえん活動を行っている、青空自主保育なかよし会の様子を 3 年間にわたって撮影したドキュメンタリー映画『さぁ　のはらへいこう　～青空自主保育の三年間～』の予告編を上映しました。

３. 自然体験活動シンポジウム
テーマ：子どもの成長に寄り添ってつなぐ自然体験

コーディネータ：エヌエスネット　北川　健司
パネリスト　　：大きな木野外塾　杉山　三四郎
山と川の学校　　三島　真
トヨタ白川郷自然學校　西田　真哉
参加者：30 名ほど
記録：庄司　正昭（ODSS エコツーリズム事業部）

《報　告》
まずはそれぞれの活動紹介あり、いろいろな話がでました。
そのなかでも印象的なところを報告します。

杉山さん【大きな木野外塾】：始めて１７年。岐阜の街中から近いことろにも良い（自然）はあるよということを伝えたい。規則、プログラムや時間に縛られないキャンプ（プログラム）を提供したいとのこと。
子供は群れで育つ、群れでいるから面白い。

三島さん【山と川の学校】：環境保護もグローバルになっては行けない。サツキマスも食べて始めて残したいと思う心が芽生えるのでは？
子供のころ大人に教わったことは無い。上級生が下級生を見るのが当たり前だった。今、そのつながりが歪んできている。その隙間を埋めるのが私たちの活動の場ではないか。
スタッフの若者たちも、自然の楽しさを知ると子供たちに教えたくなる。子供の純粋な目で見られると心に残って、良いスタッフに育ってくれている。

西田さん【トヨタ白川郷自然學校】：昔は遊びの中に学びがある。今の子供は遊びはゲームになっている。昔は子供たちは群れていましたね。上は下のめんどうを見ていた。
体験学習法について、幼児期・低学年は自由に遊ばせた方が良い（もちろん安全面はしっかり）
高学年になると集団で行動できるようになり、体験学習法が効率よく体験できる。

後半話はビジネスになり、専業でやっていくモデルもあるが、杉山さんのような他に職もありながらやっていくビジネスモデルも必要だという意見もありました。

●今後の課題と感想
　今回は、短い時間の中だったので、テーマに沿った内容で深く行けませんでしたが、昔は、子供たちは群れで育ち、上級生が下級生をめんどう見ることが当たり前で、そのシステムが失われていること。今後はそれを作り上げていくことが重要。それまでは、私たち指導者が伝えて行く必要があると感じました。
　そして、最後に「子供たちのために、お母さん、お父さんにも期待したい。そして子供たちの場所も必要」だという意見も出て、まだまだ終わらなそうでしたが、お開きとなりました。

★スキルアップ！自然体験のマネジメント　その２

1. 学校支援指導者養成講座（CONE 事務局主催）
講　師　　山県市立梅原小学校　校長　　廣瀬美晴
参加人数　　１９名
記録：高屋　良平
【実施内容】

１　学校教育における体験活動の意義
① はじめに
・学校教育とは　・学校教育の意義と役割　・学校教育における体験活動　・学校教育法では・学習指導要領では
② 今日の社会的環境
・児童虐待の状況について　・子どもの体験不足の現状
・子どもの基本的生活習慣や食生活等の問題　・メディアと
・若者の自尊感情等
③ 児童の現状
・近年の子どもをめぐる課題　・自然体験に関する調査
④ 体験活動の意義と必要性
・体験活動について　・長期宿泊体験が有する意義
⑤ 実践例
・本校２年間の活動から　・前任校での活動から　・その他の活動から
⑥ まとめ
自然体験指導者の学校への効果
・自然体験指導者の専門的な知識や技術を生かして豊かな授業（体験活動）をつくることができる。
・先生とは異なった視点で新しい課題をみつけたり、提案をしたりをするなど、学校にとって新たな発想や工夫をもたらすことができる。
・学校や子どもの実態を地域に理解してもらい、学校をより開かれたものにすることができる。
・自然体験指導者の活動を通して、学校にすべて任せるのではなく地域の問題として共に考え行動していけるようになる。
２　教育課程と体験活動の関連性
① はじめに
・梅原小学校の自然体験学習より
② 教育課程について
・教育課程　・学習指導要領　・小学校　各教科等の授業時数　・学校行事（特別活動）
【評価と課題】
①今回の講師は前回に引き続いて梅原小学校校長の廣瀬先生を紹介していていただいた。これまで体験学習の取り組みを数多くなされてきた先生のお話は、前回同様説得力があり、参加者に好評であった。
②今回、学校支援指導者研修会は、学校支援指導者が計画通り養成されていないという現状から、補助指導者取得資格が「学校教育における体験活動の意義」「教育課程と体験活動の関連性」が各２時間の受講が必要であったところを合わせて２時間での可能という形に緩和され、幅広く参加を得ることができた。ただし、その分課題を深く追求するなどの点では研修会としては物足らない面も感じられた。
③文部科学省が推し進めている「小学校長期自然体験活動支援プロジェクト」は地域や自然の力を借りて教育を再生させようという画期的で壮大な計画であるが、現段階で立ち消えの方向が出てしまっていることは、我々自然体験活動に携わるものにとっては極めて遺憾なことである。

2.「自然体験活動をとりまく『規制緩和』を知る」

ゲスト：広瀬 敏通（日本エコツーリズムセンター）
進　行：三宅 信（トヨタ白川郷自然学校）
記　録：高津 法子（ODSS エコツーリズム事業部）
参加者：21 名

《報　告》

「エコツアーの一日（架空）」を例題に取り上げて、参加者に考えられる違法部分を考えて出してもらうところから始まる。行政の縄張りの壁や法規制の壁の例が取り上げられ、いかに変わりゆく潮流に現存の制度が合っていないかを説明。参加者間でのディスカッションも行われ、最後は、今後これらの問題にどう向き合い、取り組んでいくことが大事なのかで締めくくられた。

○取り上げられた「法規制の壁」
- 道路運送法
- 酒税法
- 食品衛生法
- 農地法
- 消防法
- 労働基準法
- 旅行業法

○問題の背景
- 各種業界が成立した戦後に多く出来た法律（いわゆる業界法）が、現代の社会と不整合を起こし、現状に合わなくなってきた。
- これらの法を想定していなかったＮＰＯや地域の自然学校、エコツーリズムなどが法の想定外の活動スタイルであるために、現行法上、「違法」となってしまう。したがって、こうした「違法行為」を取り締まり、規制するのか、あるいは不整合を起こしている法律を改正して、現在の社会の流れと整合性をとるのか、という問題の論点が出てくる。

○今後の課題、解決策
- このような法の壁があることを知らず、違法認識を持たずに違法行為を引き起こし、不利益をこうむる活動者・団体が多くいる。
  →認知度を高める。もっと多くの人に知ってもらうよう指導、誘導、啓発に力を注ぐべき。
- 自然体験活動を法的に安全に取り組むにはどうしていけば良いのか考えていくこと。
- 活動者間のネットワークを強くしていき、この現状に合わない法律を緩和または、時代の新しい要望に対応できる法律に改正するよう公的機関に働きかけていくことが大事である。

○　参加者の反応

自分たちの体験やこれから取り組む企画を想定して、これは合法なのかどうかの質問が出た。それを受けて他の参加者からは自分らが取っている対応策についてなどの意見、また広瀬さんのコメントなどが飛び交い、意見の交換がなされた。

★ぎふの自然体験活動と出会おう！

【９時～14 時】（小研修室１）

オープン！「ぎふの自然体験」紹介展示場

NO　PHOTO

総括に変えて

相次ぐ公立の自然体験施設の閉鎖や管理委託による施設の質の低下。自然体験活動の必要性や大切さが言われる中、財政的に厳しい環境から岐阜県では体験の場が縮小されようとしています。私たち自然体験活動を進める立場からすると、公的な支援や箱ものに頼らず、指導者や団体がしっかりすることが重要な局面になってきました。

今回は、岐阜県下を一周していよいよ岐阜市での開催となりました。今まで体験施設の現場で行ってきた催しを街中で行うこととなり、広く一般の方への参加の呼びかけを初めて試みましたが、充分な動員を得たとは言えませんでした。

まだまだ、私たちの連携も小さなものかもしれません。しかし、集った人には情熱があり、思いがある。止めなければ失敗にはならないと考え今後もこの催しを続けていくために、もう一度私たちの集いの形も見直す必要があります。

野外の活動での事故は活動にダメージを与えます。事故やけがは日常生活でもあることですが指導者がいて安全管理をしている以上は、事故を防ぐ手立てを考え予め対処しておかなければならないことは言うまでもありません。事故防止は当然ですが、万一事故を起こした時には、事故を事件としないことが大切です。私たちはもっともっと活動を通じてつながり、交流して活動の知恵や安全を高めていく必要があります。

狭い自然体験活動の世界にも、知らないがうえの誤解や交流がないための思い違いなどボタンの掛け替えを間違ったままの関係ができています。岐阜県には自然体験活動指導者のすごい実力者がいっぱいいます。すごい思いを持った人たちがいっぱいいます。

逆風が思いっきり吹いている岐阜県ですが、個々の指導者や団体は取っても元気です。もっと集い、つながり広い視野で自分の思いを大切にした活動を、個々の指導者自身や団体自体がしっかりやっていくことが重要な時代です。

まだまだ交流の輪を広げられる可能性があり、必要性がある岐阜県のその周辺の人が集う活動を今後も頑張っていきたいと思います。参加いただいた方、ご支援いただいた方ありがとうございました。

川と山のぎふ自然体験の集い実行委員会
代表　北川健司

第 7 回川と山のぎふ自然体験の集い報告書

発行　2010年 9 月30 日

山と川のぎふ自然体験活動の集い実行委員会
事務局

岐阜県岐阜市月丘町 5-13
特定非営利活動法人　エヌエスネット　内
TEL　058-249-1166

編集責任者　高屋　良平